

教育セミナー

「子どものプレゼン力育成プロジェクト～国語科授業からはじめる情報教育」実施報告

- 期 日 平成24年2月11日（土）
- 場 所 県教育センター 情報教育棟
- 参加人数 10名
- 日程及び内容

時間	内容	講師・指導助言者
10:00～10:05	開会・諸連絡	県教育センター
10:05～10:20	子どものプレゼン力育成プロジェクト事業説明	研修主事 岩崎 有朋
10:20～10:50	研究発表 「プレゼン力育成の取り組み」	鳥取市立福部小学校 教諭 澤田ひとみ
10:50～11:30	講義 「今なぜプレゼン力なのか」	放送大学 教授 中川 一史
11:30～15:00	ワークショップ i) リーフレットづくり「伝えよう、委員会活動」（東書5年下） ii) 新聞づくり「みんなで新聞をつくろう」（東書4年下）	放送大学 教授 中川 一史 横浜市立高田小学校 主幹教諭 佐藤 幸江 金沢市立小坂小学校
15:00～15:15	報告「各ワークショップの成果と今後の実践に向けて」	教諭 小林 祐紀
15:15～15:30	まとめ・閉会	



○ 参加者の感想より

- ・福部小が実践されているカードを、ぜひ活用してみたいと思うが、枚数が多いことと、子どもの実態に合うかどうかという点で、じっくり検討してみたい。新聞記事を書く上では、まず相手意識を持つことで、ねらいがぶれない。そして写真を見てわかること、写真では伝わらないことを区別して考えることで、それ以外の事柄(例えば記事にした行事から後の状況の変化)等にまで視野が広がり、協働作業も大変楽しくできた。話し合う子どもの笑顔も見えるようだった。
- ・実際に新聞づくりをさせていただき、よく学校で児童に書きなさいと簡単に言っていました、自分が児童になったつもりで作ってみて、どういう支援をしていかななくてはいけないのか、具体的に知ることができました。しっかり目的意識を持たせ、誰に伝えるのか考えさせながら委員会活動などで役に立てたいと思います。
- ・「相手・目的を意識した指導」「全員に考えを持たせる場面の確保」「個人の考えを持ち寄って1つの良いものを作る楽しさを味わわせる」そのような授業をしたい。
- ・今回の中川先生の話から、我々が目指す授業の姿として「個人の考える場の保障」と「考えをつなぐ場の充実」に1つのヒントがあったと感じました。個の学びだけなら、学校の仲間も授業者のファシリテーションもいらないのでは、と。学力をつけるということはもちろん大切ですが、多様な思考を互いに交流することが、子どもたちの学習意欲を高める重要な事だと思えます。現場の私たちが実践する際には、今回のワークショップで体験した内容をいかに子どもたちに「やりたい」「やらねば」という形の単元にしていくかが求められます。授業だからという理由ではなく、子どもたちが「伝えたい」と思うように、完成した内容を外に出すような教材研究をしていかなければならないと考えています。
- ・プレゼンする力を子どもたちに身につけさせていくことで、子どもたちから動き始めて何かを追求する姿になっていくことが想像できた。まずはプレゼンする力を教師自身がみがくこと。そしてプレゼンの楽しさを子どもたちと共有すること。身につくまでが大変そうだという思いが以前はあったが、今日学習して、それまでの大変さよりも、プレゼンし生き生きとする子どもの姿の喜びを目指してがんばろうと思えました。
- ・まず子どもになって体験することからスタートできたことを喜んでいますが、中川先生にご指導を受けることができたならと校内で考えている所、よい機会になりました。